

# 飲水思源

自動車販売のリーダー

9

## 菊池武三郎伝

全国各県に日産自動車の特約販売店が出そろったのは、昭和14年になってからだった。同じころ、トヨタ自動車も販売店のセツトアップを終えた。日産自動車販売のかつての営業所はそれぞれの地区で直営の支店となり、支店所在地には特約店を置かなかつた。これにより直営支店以外の特約店は、日産自動車販売との縦の関係のほかに自主的な相互連絡関係を持つ

全国各県に日産自動車の特約販売店が出そろったのは、昭和14年になってからだった。同じころ、トヨタ自動車も販売店のセツトアップを終えた。日産自動車販売のかつての営業所はそれぞれの地区で直営の支店となり、支店所在地には特約店を置かなかつた。これにより直営支店以外の特約店は、日産自動車販売との縦の関係のほかに自主的な相互連絡関係を持つ

### 日産自動車販売組合理事長に



奈良日産自動車社屋前で社員と記念撮影する菊池武三郎  
(前列右から6人目) =奈良市内

## 新参の武三郎抜てき

市の代表者を理事長にはできなかった。岩手や富山に大物がいたが、白羽の矢が立ったのは菊池武三郎だった。小市場の奈良、しかも新参者の武三郎が理事長に抜てきされたのは、過去の会議で才智や弁舌が注目されていたからだ。ただ、反対もある中で実現したのは、日産自動車販売取締役の浅原源七の強い推薦があったことも大きかった。

浅原は戦時中の日産自動車工業の取締役社長で、戦後、GHQ(連合国軍総司令部)の顧問も務めた逸材。武三郎が日産陣営に加わって出会った人物の中で最も敬愛し、模範とした存在だった。浅原も武三郎を信頼し、二人の関係は武三郎が日産陣営を去り、トヨタ陣営入りしてからも深く続いた。

こうして日産自動車販売組合は、理事長に菊池武三郎、副理事長に盛岡市議会議員で盛岡日産社長の高橋佐太郎を選任して発足した。

一方トヨタ陣営でも、自動車販売組合が結成された。(文中敬称略)

〓 つづく、毎週金曜 日掲載